
私の大好きな人

巫女宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の大好きな人

【Nコード】

N5313K

【作者名】

巫女宮

【あらすじ】

このままが嫌なシャーリーですが自分が嫌われていると知っているので行動を起こしません。そんな時・・・

(前書き)

これはシャリー（ギアスカラ）×ネオン（オリキャラ）のCP
なのでGLです。

苦手な方はここで引き換えして下さい。

大丈夫な方はそのままお進み下さい。

NARUTO×SAMURAI DEEPER KYO×ロードギ
アスで結ばれたらの話し

シャーリー「はあ〜（いいな〜）皆は好きな人と結ばれて。私は・・・」

シャーリーは悩んでいたが勇気がなかった。
そんなシャーリーを救ったのは・・・

？「何、悩んでんの？」

シャーリー「！？・・・なんだリヴァルか。脅かさないですよ。」

リヴァル「ごめん、ごめん。それで？」

シャーリー「なんだっていいじゃない・・・。」

リヴァル「ネオンのことだろ？」

シャーリー「なっ／＼／」

リヴァル「シャーリーはわかりやすいからね（ニヤニヤ）」

シャーリー「だったらなによ！..！」

リヴァル「告白しないの？」

シャーリー「出来るわけないじゃない」

リヴァル「なんで？」

シャーリー「「なんで」って・・・。」

シャーリーは自分で悲しいと思いましたがいづことにしました。

シャーリー「ネオンが私を嫌ってるから」

リヴアル「!?!?・・・嫌ってはないだろ。」

シャーリー「嫌ってる!!!冷たいもん。」

確かにネオンは元から冷たかったです。シャーリーには特に冷たかったのです。

リヴアル「照れ隠しかもしれないじゃない！」

シャーリー「違うもん!!！」

リヴアル「・・・冷たくされても好きなんだろう？」

シャーリー「・・・うん。」

リヴアル「だったらネオンに今から告白しなよ。」

シャーリー「今から!？」

リヴアル「だってネオンが自分以外の人と付き合っつのが優しくするの嫌なんだろう？」

シャーリー「うん。」

リヴアル「なら決まりだな。」

リヴアルに説得されたシャーリーは告白を決意しました。

一方では・・・

ネオン「……(らくしないわね……)」

ネオンも悩んでいた。

？「こんなところでどうしたの？」

ネオン「・・・リヴァル・・・」

リヴァル「で？」

皆さん疑問に思っているでしょう。

先ほどまでシャーリーのところにいたのに何故って・・・

それは急いでリヴァルがネオンのところに来たからですVV

ネオン「・・・別に。」

リヴァル「相変わらず冷めてるね。」

ネオン「用がないなら消えてくれない？」

リヴァル「用があるから来たの。」

ネオン「あつそ。」

リヴァル「; ; ;」

リヴァルはこれでは話が進まないと思い単刀直入に言いました。

リヴァル「ネオンは面倒なことやまどろっこしいことが嫌いだろうから単刀直入に言うけどシャーリーのことで悩んでるんだろ？」

ネオン「・・・」

ネオンはずっとリヴァルに振り返らずに話していたがリヴァルの方を向いた。

リヴァル「何故って顔をしているな。それは・・・ネオンが照れ隠
しでシャリーに冷たくしたからだVV」

ネオン「・・・」

ネオンは冷めた目でリヴァルを見ていた。

リヴァル「ごめんなさい」>^(<」

ネオン「それで本当は？」

リヴァル「俺の情報網を舐めるなよ」

ネオン「ふん」

リヴァル「好きなんでしょ？告白しないの？」

先ほどシャーリーに言ったことをいって見た

ネオン「しない。」

リヴァル「理由は？」

ネオン「嫌いだから。」

リヴァル「は？」

ネオン「・・・最初は嫌いだったの。ああいう世間知らずで何も知らないように純粋な子が。でもいつのまにか好きになって・・・」

リヴァル「つまり嫌いが好きに変わって自分の気持ちに戸惑ってるから言わないと。」

ネオン「ええそうよ。それにリヴァルは他人のことより自分のこと

をどうかしたら？ミレイさんのことを。」

リヴァル「それいわれてとな（苦笑）」

バン

シャーリーが入ってきた

シャーリー「あのね、ネオン・・・」

言葉が止まった。

そしてリヴァルとネオンを交互に見た

リヴアル「じゃあ俺はこの辺で」

リヴアルが去った後ネオンのもとにきた

シャーリー「……リヴァルと何を話してたの？」

ネオン「関係ないでしょ。」

シャーリー「関係あるよ！！だって私ネオンのこと好きだもん！！」

ネオン「……」

シャーリー「勿論恋愛の方で。」

ネオン「……」

シャーリー「……（きゃくもうだめく沈黙が耐えられない）><（
）」

ネオン「私もシャーリーが好きよ。」

シャーリー「え？」

ネオン「最初は嫌いだったけど今はシャーリーのことが好き。」

そういつて笑った

シャーリー「・・・ネオン可愛い／＼／」

赤くなりながらネオンを抱き締めた。

ネオン「ちよつとシャーリー。」

シャーリー「もう離さないからね／＼」

そのときのシャーリーは怪しかった・・・

こうして彼女がネオンと付き合いだし、ネオンは受けて彼女が攻めになった瞬間だった・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5313k/>

私の好きな人

2010年10月22日00時30分発行